

教科書のP55～57を見て()の中にあてはまることばを入れていきましょう。

色彩ホームページ

1年 組 番

氏名

◆色彩の種類

○色の三要素 (三属性) すべての色は、赤や黄、緑のような色み(色相)、明るさ(明度)、あざやかさ(彩度)の三つの性質によってとらえることができる。

- ・(①))赤や青などの色みのこと。色相の近い色を順番に並べたものが色相環。
- ・(②))色の明るさの度合い。白はもっとも明度が高く、黒はもっとも明度が低い。
- ・(③))色のあざやかさの度合い。同じような色でも、色みが鈍い色は彩度が低く、色みがはっきりしている色は彩度が高い。

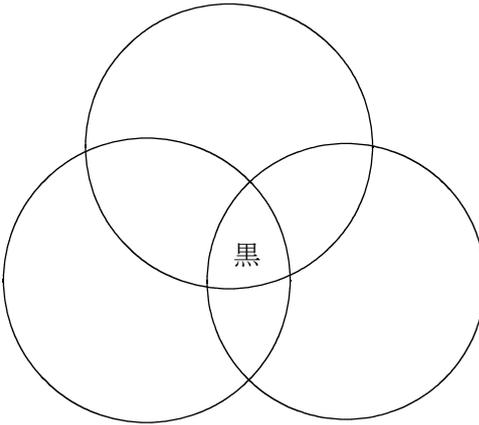
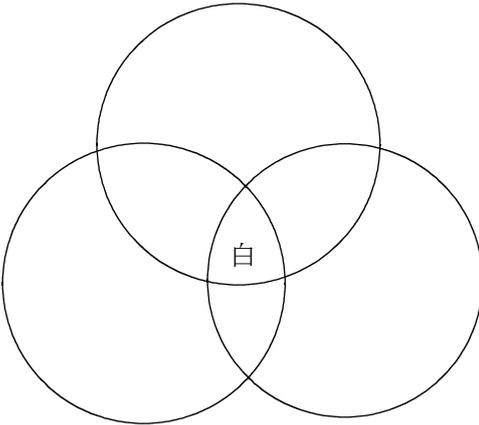
◆無彩色と有彩色

○色は、大きく分けると、(④))と(⑤))に分けられます。

- ・無彩色は白や黒、灰色で、色の三要素のうち、色相(色み)や彩度(あざやかさ)はなく、明度(明るさ)だけを持ちます。

◆三原色と混色

○色と色を混ぜてもつくることのできない色を(⑥))といいます。色料(絵の具や印刷インクなど)と光(テレビやコンピュータなどの光)では三原色が異なります。

色料の三原色と減法混色	光の三原色と加法混色
 <p style="text-align: center;">色の名前を入れましょう</p>	 <p style="text-align: center;">色の名前を入れましょう</p>
<p>絵の具などの光以外の色料の場合は、混ぜ合わせるほど明るさが減って黒に近づく。このような混色を(⑦))混色という。光以外の三原色は赤、青、黄であるが、実際のカラー印刷ではマゼンタ、シアン、黄と黒を使ってすべての色をつくり出している。</p>	<p>光の色は、重ねて混ぜ合わせるほど明るさが増し、無色透明な状態(白色光)に近づく。このような明るさが増す混色を(⑧))混色という。赤、青紫(簡単に青という場合もある)、緑が光りの三原色で、テレビはこの三原色と黒ですべての色を表示している。</p>

◆色の対比 -----

○同じ色でも、背景の色との対比によって違った色の感じに見えます。

- ・(⑨))対比 同じ色でも暗い背景では明るく、明るい背景では明るく見える。
- ・(⑩))対比 同じ色でも背景の色相の違いによって、色みが異なって見える。
- ・(⑪))対比 同じ色でも彩度の低い背景ではあざやかに、彩度の高い背景では鈍くみえる。

◆補色 -----

○色相環で、反対側に位置する二つの色の関係のことで、補色どうしの組み合わせは、(⑫))的で派手な配色にはなりませんが、引き立てて目立つ配色にもなります。

- ・緑色に囲まれた赤色と白色に囲まれた赤色は同じだが、緑色に囲まれた赤色のほうがあざやかに見える。赤色を囲んだ緑色が赤色を引き立たせている。これを(⑬))対比という。

◆色の感じ -----

○色によって、暖かい・寒い、軽い・重いなど、受ける印象が違ってきます。

◆色の膨張・収縮、進出・後退 -----

○同じ大きさ、同じ面積でも、色によって大きさや奥行きが変わって見えます。

- ・一般的に同じ大きさ、形でも、明度・彩度の高い暖色系の色の方が寒色系の色よりも(⑭))見えたり、(⑮))見えたりする。

◆色の視認性(見えやすい色の組み合わせ) -----

○色と色の組み合わせでは、(⑯))色と(⑰))の組み合わせ(明度差が大きい)は見やすく、(⑱))が近い色の組み合わせ(明度差が少ない)は見えにくくなります。

- ・明度差が少ない色の組み合わせで、見えやすくするためには、色と色の間に、(⑲))の高い線などを入れるとよい。

- ・実際に使われている標識やマークでは、(⑳))を大きくして見えやすくしている。

☆時間があったらチャレンジしてみよう。

「身のまわりのものを描いてみよう」紙は家にあるものでいいので、シャープペンや植物などを描いてみましょう。